

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

[ビズスタ]

2016 02

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、関西、京都・滋賀、仙台、福岡にて45万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作／株式会社ディリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2016 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD

袖元に、美の深遠。
カルティエ。

クレ ドゥ カルティエ ウォッチ
WGCL0006
40mm、自動巻き、18Kホワイトゴールド
4,600,800円(税込)

My Favorite Life Style

クレドゥ カルティエ ウォッチ
W2CL0004
31mm、自動巻き、
ステンレススティール&ピンクゴールド
982,800円(税込)



Photo 2000 © Cartier



© Cartier

パロン ブルー ドゥ カルティエ ウォッチ
W6920042
42mm、自動巻き、スチール
837,000円(税込)

サントス ドゥモワゼル ウォッチ
WF9011Z8
ミニモデル、18Kピンクゴールド、ダイヤモンド
3,456,000円(税込)



© Cartier

タンク アングレーズ ウォッチ
W5310028
SM、18Kイエローゴールド、レザー
1,296,000円(税込)



© Cartier

イン、丸みを帯びた側面が特徴の各モデルは、かつて目らわなかった世界を驕然とさせた「ケース」の融合がデザイン上の基礎となつてい

の十八番だが、それがリユースにまで及んでい

「パロンブルー ドゥ カルティエ」は、ケースデザインの

を隠し切れないといった趣だ。現在

* * * * *

Biz Life Style Pick up >>> 時代を先導し、しかも長く色褪せない。それが、カルティエの美。



1967年
(1990年)



1958年
(1965年)



1921年
(1936年)



1904年
(1915年)

常に時代を先駆けながら、時を超えて生き続けるカルティエのウォッチデザイン。今見ても風格たっぷりのアンティーク時計に映るはずだ。中でも右の2点には注目。サントスとタンクページ2上部の最新モデルと見比べれば、基本的なデザイン思想がいかに優れたものだったかが理解できるだろう。

Photographs by Yu Mitamura

※年号表記について：(上段)初出、(下段)制作年

100年前のモデルでも驚異の完成度



Photo 2000 © Cartier

クレドゥ カルティエ ウォッチ
WJCL0002
31mm、自動巻き、18Kホワイトゴールド、ダイヤモンド
4,590,000円(税込)



Eric Maillet © Cartier

クレドゥ カルティエ ウォッチ
WGCL0004
40mm、18Kピンクゴールド、レザー
2,322,000円(税込)



Photo 2000 © Cartier

クレドゥ カルティエ ウォッチ
WJCL0016
31mm、自動巻き、18Kピンクゴールド、レザー、ダイヤモンド
3,142,800円(税込)



Eric Maillet © Cartier

クレドゥ カルティエ ウォッチ
WGCL0006
40mm、自動巻き、18Kホワイトゴールド
4,600,800円(税込)

Clé de Cartier

クレ ドゥ カルティエ



Eric Maillet © Cartier

「王の宝石商」が腕時計に与えた「美の世界」。



「クレドゥ カルティエ」のために新たに開発された自社製ムーブメント「1847-MC」

Eric Maillet © Cartier

あらゆるものがデジタルに置き換わる中で、私たちのライフスタイルは大きく変化した。手にするツールも様変わりしたが、世の中にはそうした時代の波に左右されないものがある。私たちの身の回りでは、靴と靴を履いて腕時計が代表例だろう。

腕時計のブランドは、大きく2種類に分かれると考えればよいだろう。一つはウォッチメイカー、もう一つはジュエリーだ。前者は、時計の中身である機構部分、いわゆる「ムーブメント」の製造を得意とする。後者はそれを保護する外装部分、つまりケースづくりが中心だ。この両者が、お互いに専門外の部分を相手に委ねながら、自社の領域に注力している。そう考えれば分かりやすいだろう。

今こそ、私たちは腕時計を「ケースとストラップがひとつになったもの」と認識する。だが、1900年代初頭の時計づくりは、時計の本体が格納されているケースに対し、ストラップを取り付ける金具「ラグ」と呼ばれるものを後から溶接するというスタイルが一般的だった。この常識を覆し、早々と両者を融合させたのがカルティエだ。20世紀の半ばには、ラグを省いて「ケース」を一体化することで、より大胆な造形が可能に。1960年代に発表された「ラッシュ」では、現代美術と見紛う水準にまで発展させ、世界中を驚かせた。

また、カルティエは、ジュエリーの代名詞でありながら、同時にウォッチメイカーでもあるという異色のスタンスを取る。ジュエリーづくりで培ったデザイン力に加え、ムーブメントづくりまで自社内で完結できる力を身に付けたことで、「真のウォッチメイカー」として成長を遂げたのだ。

そして、自分の発想に制限をかけることなく、美を追求し続けてきたカルティエ。その姿勢が成功を生み、揺るぎない地位を固めた今も不変だ。では現在、どんな美を創り出しているのだろうか。

独創的なデザインが結晶した最新作

My Favorite Life Style



Oliver Ziegler © Cartier 2009

「真のウォッチメイカー」を支える自社工房。

中面では主にジュエリーとしてのカルティエについて紹介したが、もちろん自社の製造拠点を有している。創業以来、揺るぐことなくデザインにこだわりの続けてきた腕時計へのモチベーションは、いまや駆動装置、いわゆるムーブメントにまで広がっているのだ。

設計部門と製造部門を一体化し ムーブメントも自社生産

写真は、2000年に完成したスイスのラシヨードフォンにある時計工房。6万㎡にも及ぶ敷地に付む建物内では、ケースや針、機構部品の製造だけでなく、設計や技術の継承、アンティーク品の修復作業が行われている。

同工房は、機構と外装の各製造部門に加えて、設計部門も置かれているのが特徴だ。また、昨年9月には、工芸技術とジュエリーウォッチ製造技術を一体化させた「メゾン・デ・メティエ・ダール」も開設されている。

設計部門と製造部門の距離をゼロにすることで、デザイン性はさらに強化された。ムーブメントの設計製造を自社で行うだけに留まらず、今ではパーツにまで美を追い求めているというのだから、何ともカルティエらしい。受け継ぐべき技術を途切らせることなく、それでいて市場からのニーズに応える首尾一貫の自社生産体制。これが、現在のカルティエの姿なのだ。

生涯にわたって衰えぬ美を提供する 揺るぎない「ミニファクトリー」

ジュエリーとしてスタートしたカルティエは、100年もの時の流れの中で、トレンドを牽引する傑作を多数生み出してきた。それは、機械ではなく美しさを欲する層をウォッチの世界に

誘い、業界全体の活性化に貢献してきた。だが、現在のカルティエは、ムーブメントを自作できるだけの製造技術に加え、その「美の追求」が徹底されている分、もはやウォッチメイカーを凌ぐほどの存在になったと言える。まさに「ミニファクトリー（自社一貫製造の時計メーカー）」の称号が相応しい。

カルティエのウォッチは、もちろん日本でも幅広い層に愛され続け、多数の愛用者を抱えている。実際のモデルは以下の店舗で手に取ることができるので、ぜひお出かけいただきたい。

真のウォッチメイカーが創り出す、生涯にわたって衰えることのない美。これから腕時計の愉しみを味わいたい方には、「最初の1本」として、これほど似つかわしいメゾンもないだろう。



【左】コンプリケーションムーブメントの組立工程。カルティエはジュネーブにも工房を有している。
【右】上の写真の建物の2階が設計部門のオフィス。階下の製造部門とは常にコミュニケーションが取れる環境。
Photo by Masahiko Takeda



宮崎市の名店「日高本店プロショップ」内に カルティエコーナーが移転&リニューアルオープン。

Biz Life Style Pick up >>>



1949年創業の「日高時計本店」は、宮崎県を代表する宝飾時計店の老舗。「日高本店プロショップ」も、前身のオープンから今年で20年を迎える。本格的スイス機械式時計に出会える専門店として、県内のウォッチファンにはお馴染みの存在となった。

九州の専門店では初となる「サロン・ドゥカルティエ」をオープンするなど、カルティエとも縁が深い人気ショップ。そして今年11日、日高本店プロショップ内にカルティエコーナーを移転してのリニューアルオープンが実現。さっそく多くの人で賑わっている。

本紙で紹介したもの以外のモデルも豊富に揃っているため、ぜひ店頭で魅惑のカルティエ体験を。

■取扱ブランド
カルティエ・パネライ・ロレックス・ブレゲ・ブランパン・オメガ・ブライトリング・タグホイヤー など

HIDAKA HONTEN PROSHOP

日高本店プロショップ

宮崎市橋通東3丁目4-6
TEL.0985-26-1102
営業時間／10:30～20:00

<http://hidakahonten.jp>

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間／10:00～20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp